



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

病理診断についてご存じですか？

臨床病理診断科 診療科長・教授 美島 健二

皆さん、病理診断という言葉をご存じでしょうか？ 病理診断とは、患者さんの病変より採取した細胞や組織を顕微鏡で観察して病気の確定診断を行うことです。この病理診断により、病変の良悪の判定がなされ、それに伴う治療方針が決定されます。

病理診断には、大きく分けて細胞診断（細胞診）と生検組織診断（生検）の2つがあります。細胞診では、病変の表面から専用のブラシでこすって細胞を採取する場合や、深部に位置する病変から細い針を刺して細胞を吸引して採取する場合があります。いずれもスライドガラスの上に採取した細胞をのせて顕微鏡で観察します。

一方、生検は、病変の一部をメスにより切りとり組織を採取し、最大割面で薄切した標本を作製し顕微鏡で観察します。身近な例としては、胃や腸のポリープを内視鏡により採取した組織の病理診断が生検にあたります。

歯科病院で対象とするお口の中の病変、例えば歯肉に白斑がある場合を例に挙げますと、まず病変の表面をブラシでこすって

細胞診を実施し、そこで腫瘍の可能性を疑う場合は、さらに生検を実施します。一方、臨床的に腫瘍の可能性がある場合は、細胞診なしに最初から生検を実施する場合もあります。



私たち臨床病理診断科では、口腔内病変の診断について専門的知識を有する口腔病理専門医が病理診断を担当させていただいております。

お口の中にできる悪性腫瘍（口腔がん）に罹患（りかん）している患者さんの数は、年々増加傾向にあります。早期のガンと進行したガンでは、治療後の経過が著しく異なることが知られています。お口の中の粘膜が白や赤く変化したり、口内炎が治りにくいなどの症状がある場合は、早めに当院ないし近隣の歯科医院を受診してください。当院を受診された場合は、病変から採取された細胞や組織を、私どもが責任を持って診断させていただきます。



P1 巻頭言 病理診断についてご存じですか？

P2 診療科紹介 臨床病理診断科

P3 歯科診療トピック：矯正歯科

P4 部署紹介：栄養科、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：臨床病理診断科

臨床病理診断科 助教 石田 尚子

臨床病理診断科は、歯学部口腔病理学部門教授の美島健二を診療科長とし、口腔病理学部門と兼任で以下の業務を行っています。

生検組織診断（生検）：

病変の全部もしくは一部を採取したものを、顕微鏡にて詳細に観察することでどのような病変なのか（良／悪性、手術の必要性、等）を決定する確定診断を行います。手術による摘出が必要だと判断された場合は、摘出された病変を更に細かく分割し、悪性度の再評価や進行の程度等の診断を行います。

細胞診断（細胞診）：

病変の表面からこすり取った細胞や、深部に位置する病変から注射針で採取した細胞を、顕微鏡で形態を観察することで病変の良悪の判定を行います。細胞診は診断に必要な検体量が少ないため検体採取が容易ですが、診断の確実性は生検組織診断に比べると劣ります。

術中迅速診断：

手術中に組織の一部を採取し、病変の診断や手術範囲の決定、あるいは病変の取り残しがないか等の判断を顕微鏡像から判断することで、外科手術の精度向上に貢献しています。

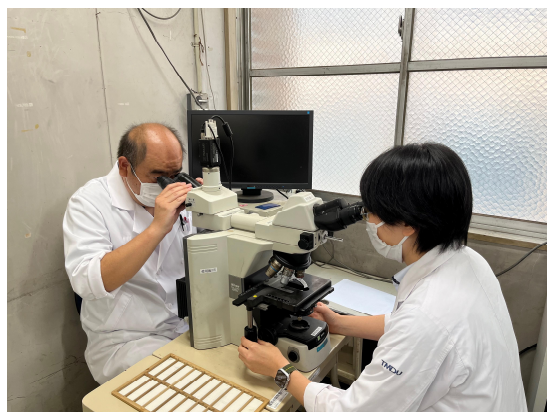


写真1 臨床医と顕微鏡をみながらのディスカッション

開業医の先生方からの病理組織検査の受託：

開業医の先生方からの診断依頼をお引き受けしております。採取された検体を固定液に入れ、当科までご送付いただきますと、2週間ほどで診断結果を返送いたします。検査には受託研究契約が必要となります。詳しくは当科のホームページをご覧ください。お電話・メールにてお問い合わせください。

私どもは基本的に患者さんと直接お目にかかる機会はありません。しかし、各診療科で採取された病変を通じて患者さんと向き合っています。病理診断の結果は治療方針の選択や予後（医学的な経過の見通し）の予測など、患者さんのQuality of life (QOL) に直結しています。

当院が質の高い医療を提供できるよう各診療科と緊密な連携をとり、細心の注意を払い診断を行っています。また、医系総合大学である昭和大学の特徴を活かし、医学部臨床病理診断学講座と連携して口腔疾患の診断等に従事することで、精度の高い診断法の確立や予後の予測に取り組んでおります。

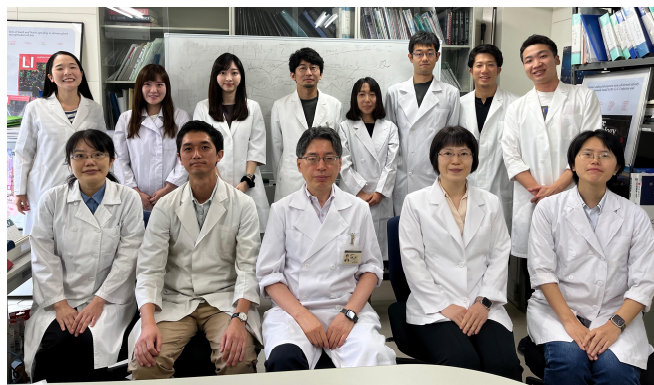


写真2 口腔病理学部門スタッフ

昭和大学歯科病院矯正歯科では、一般的な子供・大人の矯正に加え、顎の変形を伴う「顎変形症」や口唇口蓋裂など、厚生労働大臣が定める疾患に対する保険診療も行っています。

私たちは、総合歯科病院ならではの最先端の矯正治療を提供するとともに、「医療サービスに従事する」という自覚を常に持ち続けております。今回は、当科の矯正治療の特徴をいくつかご紹介し、矯正治療をより身近に感じていただければ幸いです。

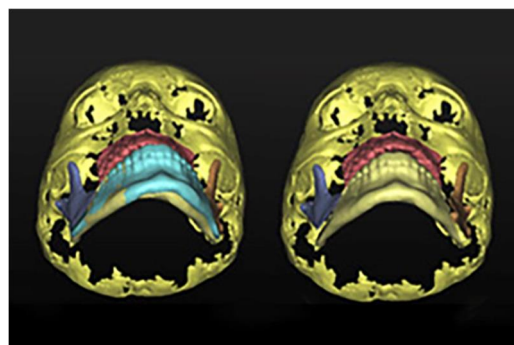
当科における矯正治療の特徴

他科との連携

当科には、「顎変形症」や「先天性疾患」の患者さんが多く来院されています。昭和大学の強みである医療系総合大学の特性を活かし、昭和大学藤が丘病院の形成外科や歯科病院の顎顔面口腔外科など、各診療科とのカンファレンスを毎月1回行っています。これにより、チーム医療の実践と相互理解に取り組んでいます。

先進的検査機器を用いた診断・治療計画の立案

当科では、安全な治療を心掛けるため、先進的検査機器を使用して的確な診断と治療計画の立案に努めています。顎顔面用コーンビームCTなどの最新の検査機器を活用し、3次元的に資料を解析して診断・治療計画を立てています。これにより、安心・安全な医療の提供を実践し、患者さんには治療方法を分かりやすく丁寧に説明することを心掛けています。



顎顔面用コーンビームCT

アライナー型矯正装置（マウスピース矯正）を用いた矯正治療

近年、取り外し可能で透明なアライナー型矯正装置を用いたマウスピース矯正が注目されています。当科は、アライナー矯正治療に関する診療・研究をいち早く導入し、基礎研究から得られた知見を基に、治療やセカンドオピニオンを含むリカバリーなどのご相談にも真摯に対応しています。



アライナー型矯正装置

これからも、皆様に信頼していただける医療を提供するため、スタッフ一丸となって努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

部署紹介：栄養科

栄養科 管理栄養士 長谷部 茂美

「衣食住」という言葉を耳にしたことがありますか。一度は耳にされたことがある方が多くいらっしゃるのではないのでしょうか。「衣食住」は、人が生きるために切り離せない絶対必要不可欠な要素です。その要素の一つである「食」は食事です。

その生命維持のために欠かせない必需品を担っている栄養科ですが、存在感がうすいため、在席場所が分からない方が多いのではないのでしょうか。地下1階（2号館）の事務課内で、管理栄養士1名、栄養士1名で行っています。

当院は調理業務を委託会社スタッフと協働し、安心安全でおいしく召し上がっていただける食事を提供できるよう努力しています。調理室が2階病棟と同じ階にあり、適温で作り立てに近い状態で患者さんの元にお届けできています。

当院は歯科治療専門の病院であり、埋伏智歯、腫瘍、顎変形症、インプラントと多くの患者さんがご入院されます。特性上、在院日数が短いですが、手術後は開口や咀嚼機能に支障をきたすため、食形態に重視しています。歯科医師の指示に基づき、患者さんの状態に合った食事を提供し、アレルギー、宗教上などの禁止食品について出来る限り対応しています。また、入院中の食事に季節を感じていただけるよう、行事食にメッセージカードを添えています。

退院支援として、日々の食事や退院後の食事に不安や疑問のある方に、医師の指示に基づきお食事のお話を個別に対応しています。

今後も患者さんに満足していただけるよう、日々努力していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



＜七夕行事食＞



＜キザミ食＞



＜ソフト食＞

編集後記

二百十日をご存知でしょうか。夏目漱石の小説「二百十日」が有名ですが、立春から数えて210日目の日で、9月1日頃のことを指します。二百十日は稲の開花と台風の影響が重なる時期のため、農業では厄日とされています。

実りの秋ではありますが、台風が多い季節ですので、日頃から防災対策を万全にし、気を付けてお過ごしください。

(S.I)

